

秋涼。過ごしやすい気候となりました。本年度もいよいよ後半です。学級の児童生徒同士の間関係や、学級の生活の中に生まれる問題に対する自力解決の様子はいかがですか。校内での活動が多くなり、落ち着いて学習活動に取り組める時期です。改めて、学級の児童生徒の理解に努め、後半の学級づくりへの見通しをもちたいものです。学力・体力を伸ばし、心を豊かにするための基盤は、学級づくりです。



### <小学校>

#### 子どもが作り出す学級行事

収穫祭、遠足、学習発表会等、行事の際には、毎年やっているから…ではなくて、子どもたちの発想を生かして、ちょっぴり工夫を加えてみませんか。

#### 地域を巻き込んで！「五平餅大作戦！」

信州の郷土食・五平餅作り。地域によって形や味が違って楽しいですね。子どもたちの疑問や願いから、活動の輪の広がりが期待できます。例えば…

「自分たちの収穫したお米で作ってみよう」

「形は地域によってどのように違うのかな」

「地域の方に作り方を  
教わって収穫祭をしよう」

「味噌の味付けをアレンジ  
したらどうなるかな」



と、次々と活動が広がりますよ。

#### 行動が遅れがちな児童を支援するポイント

注意を向けてから話し始め、やることを簡潔な言葉で伝える。

Mさんは、着替えや準備、片付けなど、行動への取り掛かりが遅く、いつも時間がかかってしまいます。

- ・日課について確認するときは、Mさんの肩に手を置いたり、黒板の時間割のところをコンコンとたたいたりして、Mさんが時間割に意識を向けてから話し始めるようにしました。
  - ・指示については「間に合うように行こう」ではなく、「机の上のものを全部、かばんに入れよう」や「運動着に着替えたなら、体育館に行こう」と今やることと次にやるのが分かるように具体的に簡潔な言葉で伝えるようにしました。
- 周りの様子を見てから行動することが少なくなり、自分から次の行動に移る姿が多くなりました。

### <中学校>

#### 子どもを決めつけていませんか？

「いつもあの子は落ち着かない。何をやってもすぐ飽きてしまう」「あの子がいるから困ってしまう」…。知らぬ間にそんな『あの子』が先生の胸のうちに出来上がってしまっていることはありませんか？

そんな気になる『あの子』こそ、発想を転換し、いつも『よさ』はないか気にかけてみつけ、その子にどんどん伝えてあげましょう。また、授業や学級活動等で『よさ』を生かす工夫をしてみましよう。



- 教科の先生と情報交換し、うまく行っている例を積極的に授業に取り入れる。
- 何をどのようにするのか、次はどうするのか見通しがもてるようにする。
- ちょっとがんばれば乗り越えられそうな課題を準備し、できたときには一緒によるこぶ。
- 『よさ』や『得意技』を生かせる活動を取り入れ、仲間から認められる場面を作る。

#### 定期テストに向けた取組 ～学級みんなで、取り組む雰囲気づくり～

一人では、テスト勉強が進められない生徒もいます。学級全体で雰囲気作りをしてみましょう。

#### 日常的に

- ・授業で習った重要点等を教室の壁面に貼る。(できれば、教科係が作るように支援)
- ・短学活の時間、クラスのドリル係等が、5分間程度の定期テスト予想問題を出題する。(係自身の勉強にも役立つ)
- ・帰りの学活時、週1回程度「教え合いタイム」を設定。教科を絞り、生活班を基本として教え合う。(他の班の人に聞くのも可)

#### テスト3日前

- ・学年統一で、短学活から放課後にかけて30分程度の時間を確保。基本は教室で学習だが、個人で、教科の先生へ質問に行くことも可とする。